



情報ボックス

No. 12

西淀川支援学校地域支援部

情報ボックスNo. 12のテーマは『食事の自助具』についてです。

【自助具とは】

福祉用具という言葉をよく聞くようになりましたが、自助具は福祉用具の中で最も身近な道具であり、生活を広げる小さな福祉用具であるといえます。自助具は体が不自由な人が日常生活動作をより便利に、より容易にできるように工夫された道具の事です。例えば『手が不自由でボタンがはめられない』『片手が不自由で調理が大変困る』『箸が自由に扱えない』など、どうしてもできない動作を補うように工夫された道具すべてが自助具といえます。体が不自由な人の生活に密着した道具ですから、容易に取り扱える大きさと、単純な操作で利用できる配慮がなされています。一人一人に適した自助具を選んだり、身体の状態や能力、要望に合わせて制作・調整したりする事が必要となります。

【食事の自助具の種類】

本校の生徒も使用している様々な食事の自助具を紹介します。

●スプーン・フォーク

① 握り部を太くしてある



・灰色のスポンジで柄の部分太くしています。握る力が弱くても、写真のようにしっかりと握ることができます。



② 先を曲げることができる



・先を曲げることによって、すくった物をそのまま口に入れられるように工夫しています。先は自分の思ったように手で曲げることができます。

●皿

① 底に滑り止めが付いている

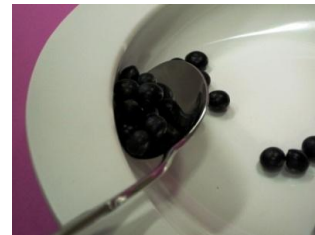


・滑り止めがついてあり、動きにくくしてあります。

② すくいやすいように内縁を立ててある



・深くえぐられたような形状をしています。この形状により、皿の内容物をスプーン等でスムーズにすくい取ることができます。



●コップ

① 底が細くなっている



・一見、普通のマグカップのように見えますが、内縁は円錐状になっており、カップを大きく傾けることなくすべて飲めるようになっています。さらに、カップの縁を広げて細くして飲みやすくしたり、持ち手を太くしたりする工夫をしています。